

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 28日

事業所名 発達支援ルームすたーとる

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			人数や特性等に合わせて、場所を変えたりと対応している。	引き続き、支援の充実を図る。
	2 職員の配置数は適切である	7			なるべく1対1で対応できている。	人員配置基準を満たし、休みがいても対応できるように、配置している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5		2	必要な物品のみ出すようにし、使わない物は別の部屋に片づけており、混乱しないようになっている。	利用児に応じ、スロープやバリアフリー等検討する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			月に1度、個々の目標や成果、課題の報告及び検討を行っている。	全職員で共有することが難しい勤務体制であるため、共有できる体制作りに向け検討する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			意見箱を設置している。	保護者の意向等を確認し、業務改善につながるよう検討する。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		1	HPIに公表している。	公表の方法等について、周知する方法を検討する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6		1		第三者委員会の設置について、必要に応じて検討する。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			県や市主催の研修会等に参加。気になる点、不明な点はその都度ケース会議を開催している。	職員の資質向上に努めた勉強会、研修会を継続して実施していく。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			ケース会議等、実施した上で、日頃の支援や支援計画に活かしている。	引き続き、支援の充実を図る。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			発達検査結果等、アセスメントツールを参考にしながら、個別支援計画を作成している。	引き続き、支援の充実を図る。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7			意見を出し合いながら、活動内容を作成している。	引き続き、支援の充実を図る。
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			意見を出し合いながら、活動内容を作成している。	引き続き、支援の充実を図る。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			長期休暇ならではの体験や経験できる支援を考え、実施している。	引き続き、支援の充実を図る。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			個々の児童の特性を十分に理解し、個別と集団の必要性を考慮したうえで作成している。	引き続き、支援の充実を図る。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		1	情報共有のボードやノート等、職員間ミーティング同等の内容や役割分担について確認している。	日々のミーティング時間確保について、検討していく。今後、さらなる充実を図っていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			連絡ノートや支援ボード等を使い、情報共有を行っている。	今後、さらなる充実を図っていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			支援記録を記載したり、業務報告や共有事項の確認を行っている。	引き続き、支援の充実を図る。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			利用児の状態の変化や保護者のニーズを適宜取り入れられるよう努めている。	引き続き、支援の充実を図る。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7			ガイドラインの読み合わせを行い、支援の基本活動を意識して支援を行っている。	引き続き、支援の充実を図る。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			児童発達支援管理責任者に加え、担当を多くかかわった職員が参加している。	引き続き、継続していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			児童発達支援管理責任者を中心に全職員で行い、必要な情報の取得や提供に努めている。	引き続き、継続していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当児無し	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			子どもの実態やニーズに応じて支援会議や訪問等を行い、情報共有等を行っている。	必要に応じて連携を図る。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				該当児無し	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			必要に応じて、研修を受講したり、連携し支援を行っている。	引き続き、継続していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7			近隣の子供達と活動を行ったが、回数を重ねられなかった。	児童館等の交流も含め、引き続き継続していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7			児童発達支援管理責任者が参加している。	引き続き、継続していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			活動のフィードバックや園・学校での様子等、送迎時や電話・訪問にて連携を図っている。	引き続き、支援の充実を図る。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7			ペアトレは行っていないが、個別で面談等を行い、家庭支援を行っている。	今期は開催が難しい現状だったが、次年度以降で検討していきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			利用契約時に個別に実施している。	継続して取り組みたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			送迎時や来所時等、コミュニケーションを図るよう心がけている。適宜個別に面談を行っている。	継続して取り組みたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7			日々の利用に関する意見や相談について、迅速に対応できるように配慮している。苦情への相談窓口も設けており、契約時に説明している。	今後も同様に、意見や申し入れ等には迅速かつ丁寧に対応し、問題解決に取り組んで行く。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			日々の利用に関する意見や相談について、迅速に対応できるように配慮している。苦情への相談窓口も設けており、契約時に説明している。	今後も同様に、意見や申し入れ等には迅速かつ丁寧に対応し、問題解決に取り組んで行く。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			公式 SNSにて事業所の様子を伝えている。連絡帳で行事予定やお知らせを伝えたり、毎月の様子を写真と共にわかりやすく各利用児に配布している。	今後も定期的に情報発信を行っていくよう努める。
	35	個人情報に十分注意している	7			個人情報に関する書類は取り扱いに十分配慮している。情報使用時には必ず保護者様に同意を得ている。	今後も個人情報についての細心の注意を払い、取り扱い・保管に努めていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			特性に合わせた伝達手段や、わかりやすい丁寧な説明を心がけている。	児童や保護者に理解頂けるよう、分かりやすい説明や情報伝達を心掛け、個々にあわせた対応に努める。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4		3	コロナ禍でもあり、現時点では事業所行事に地域住民を招待する企画は、検討していない。	現在は感染症リスク、プライバシーの保護の観点からも保護者様全員の理解や説明が難しい部分もあるため、慎重に検討したい。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			定期的な訓練の実施に基づいて見直しをおこなっている。	各種マニュアルについて、全職員での共有を図る為、周知並びに掲示方法を検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			全利用児が訓練に参加できるよう、実施時間を分けて実施している。	継続して実施していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			所内で職員研修を実施し、虐待防止について周知徹底を図っている。	今後も所内での研修を継続し、虐待防止について知識を深めていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			原則として禁止であるが、止むを得ず必要となる場合は、児童や保護者に十分説明を行い、承諾を得て計画に記載していく。	今後も原則として身体拘束は行わない基本姿勢を守り、やむを得ず身体拘束を行う場合には、あらかじめ書面により保護者から同意を得て、個別支援計画にも記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			アレルギーの有無に関してはアセスメントの段階で確認し、おやつ成分・種類等十分に配慮している。	今後、アレルギー等のある児童の受け入れの場合は、医師と連携し指示書に基づく正しい対応を熟知して、安全な支援に取り組んでいく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		1	ヒヤリハット報告書を作成し、情報共有を徹底していく。	事例集はないが、職員間で報告し、共通理解を図りながら、安全な支援を行っていくよう務める。